

2021年11月22日

日産自動車株式会社

フォーアールエナジー株式会社

**日産自動車とフォーアールエナジー、
「電気自動車普及によるCO₂削減、及び、日本電動化アクション“ブルー・スイッチ”活動」が
令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰を受賞**

日産自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市西区、社長:内田 誠、以下、日産)とフォーアールエナジー(本社:神奈川県横浜市西区、社長:牧野 英治、以下、4R)は、22日、環境省が主催する令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰の開発・製品化部門において、「電気自動車普及によるCO₂削減及び日本電動化アクション“ブルー・スイッチ”活動」が、「気候変動アクション環境大臣表彰」を受賞した、と発表しました。



日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」



日産は、2010年に世界で初めてグローバルな量産型EV「日産リーフ」を発売して以降、EVの普及を通じたゼロ・エミッション社会の実現を目指し、電動車両と電動化技術の普及促進に向け取り組んでいます。

4Rは、2010年の設立以来、使用済みバッテリーの再利用、再製品化ビジネスを通して、低炭素循環型社会に向けた様々な価値創造に取り組んでいます。

また、2018年から日産は、全国の自治体、企業、大学などの教育・研究機関との協働により、EVを活用し日本が抱える地球温暖化や災害対策等の課題を解決するための活動、日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」活動を推進しています。本活動におけるパートナーとの連携は150件に到達し、4Rによる充電アシスト用再利用電池の提供など、EVのライフサイクルを通じたCO₂排出量削減のアイデアも数多く実践しています。

今回、日産と4Rが受賞した「気候変動アクション環境大臣表彰」は、環境省が気候変動対策推進の一環として、顕著な功績のあった個人・団体の功績をたたえるためのもので、CO₂削減に向けた両社の取り組みが高く評価されたものです。

日産は、現在、2050年までに事業活動を含むクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラルを実現する目標の達成に向け、2030年代早期より、主要市場に投入する新型車をすべて電動車両とすることを目指し取り組んでいます。今後も、電動車両のラインアップ拡充とその普及を通して更なるCO₂削減を目指すと共に、4Rとの協業によりEVバッテリーの2次利用を中心としたビジネス開発にも継続的に取り組んでまいります。

なお日産が推進する日本電動化アクション『ブルー・スイッチ』は、環境省主催の「第9回グッドライフアワード」においても、「実行委員会特別賞 地球と人への思いやり賞」を受賞しました。

日産と4Rは、引き続き多くのパートナーと協力しながら、EVの活用を通じた地域課題の解決に向けて連携を強化してまいります。

以上